

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
北河原市営住宅D棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境					0.40				2.9
1 音環境				2.6	0.15	2.6	1.00		2.6
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	0.40		
1 暗騒音レベル				3.0	1.00	3.0	1.00		
2 設備騒音対策					-		-		
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.91	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	0.09	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				2.6	0.35	1.1	1.00		1.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	1.1	1.00		
1 室温設定				3.0	0.57	-	0.63		
2 負荷変動・追従制御性					-		-		
3 外皮性能				3.0	0.35	3.0	0.38		
4 ゾーン別制御性				3.0	0.09		-		
5 温度・湿度制御					-		-		
6 個別制御					-		-		
7 時間外空調に対する配慮					-		-		
8 監視システム					-		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.1	0.25	4.0	1.00		3.7
3.1 昼光利用				3.4	0.30	4.0	0.50		
1 昼光率				3.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口					-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備		トップライトを設置している。		4.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.50		
1 照明器具のグレア					-		-		
2 昼光制御				3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15		-		
1 照度				3.0	1.00		-		
2 照度均斉度					-		-		
3.4 照明制御				3.0	0.25		-		
4 空気質環境				4.2	0.25	4.2	1.00		4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.58	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		仕上材においてほぼ全面的にF4の材料を使用している。		5.0	1.00	5.0	1.00		
2 アスベスト対策					-		-		
3 ダニ・カビ等					-		-		
4 レジオネラ対策					-		-		
4.2 換気				3.0	0.38	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.47	3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	0.06	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.47	3.0	0.33		
4 給気計画					-		-		
4.3 運用管理				5.0	0.05		-		
1 CO ₂ の監視					-		-		
2 喫煙の制御		施設内部は、禁煙としている。		5.0	1.00		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		2.7
1 機能性				2.7	0.40	2.0	1.00		2.2
1.1 機能性・使いやすさ				3.8	0.55	2.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	0.08	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.08	2.0	1.00		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。		4.0	0.85		-		
1.2 心理性・快適性				1.1	0.38	2.0	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	0.08	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				1.0	0.08		-		
3 内装計画				1.0	0.85	1.0	0.50		
1.3 維持管理				2.0	0.07		-		
1 維持管理に配慮した設計				2.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.31	-	-		3.2
2.1 耐震・免震				3.0	0.48		-		
1 耐震性				3.0	0.80		-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.33		-		
1 躯体材料の耐用年数		鉄骨及びコンクリートの評価基準で等級3相当。		5.0	0.23		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ビニルクロス貼りなど		4.0	0.09		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23		-		

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	井水の利用が可能な計画としている。	5.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	メタルケーブルを設けている。	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			2.9	0.29	2.7	1.00
3.1 空間のゆとり			3.8	0.07	3.4	0.50
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	主要構造部はフレキシブルなラーメン構造を採用している。	5.0	0.40	4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.07	2.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.0	0.86	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出		敷地や建物の植栽条件に応じた緑地づくりを行なっている。	4.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮		京都市景観条例に基づいた、規範となるデザインを採用している。	5.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域施設を持つ集合住宅として地域に配慮している。	5.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制		外壁に断熱材を使用している。	3.2	0.38	-	-
2 自然エネルギー利用			3.1	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用	地域施設にトップライトを設けている。	3.2	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=22.6	3.4	0.38	-	-
4 効率的運用			3.5	0.05	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制	複合施設として運用方針が整備されている。	4.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.9	0.15	-	-
1.1	節水	水回りにおいて節水型の器具を採用している。	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.9	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	植栽への灌水において雨水の利用を行っている。	4.0	0.92	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.08	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	内装材に再生材料を使用している。	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み		3.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含む材料を使用していない。	5.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-
1	消火剤	フロン・ハロンを使用していない。	4.0	0.33	-	-
2	断熱材		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		緑地面積を大きくとっている。	4.6	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減	開発許可基準以上を満たしている。	4.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	認定道路の安全性に配慮して敷地内駐車場の計画を行っている。	5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制	日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている。	4.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインを満たしている。	5.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-